

1. インターネットを介した個別指導

講義に欠席した場合や出席したがよく理解できなかった場合に、録画した内容等をオンライン学習システムで公開しているの、自宅等で自習する様に個別に指導している。さらに、研究計画の立案や解析方法の指導、結果の分析などに、岡山大学の WebClass と呼ばれるネットワーク教育室システムも活用している。このシステムは掲示板での意見交換や講義資料の配付などにも活用出来、特に発展コースでは、学会ジュニアセッションや全国大会発表などのポスター及び原稿作成時に、受講生が自宅において仲間同士の議論や教員からの指導を受けている。

2. 「Virtual Class」について

海外研修をより効果的にするため、現地訪問の約6か月前から、原則 GSCO 生2名とフランス側高校生2名でチームを組ませ、だれもが興味を持つユネスコが与えている環境に関するテーマについて各々の国での状況を踏まえた解決策を議論させる。その過程では、SNS など用いた議論を個々のチーム内で行い、互いの国で異なる部分なども学びながら3回程度全体会議を行い、各々の進捗状況などを双方のコーディネーターなどを交えてチェックする。

具体的には、Adobe Connect というインターネットサービスを利用し議論を行うほか、Google プラスや他の SNS を使って高校生間でのやりとり・協働作業を重ねる。

○Virtual Class (VC) の流れ

GSCO 受講生2名、フランス側高校生2名でグループを作る (10グループ程度)。ユネスコが与えている環境に関するテーマからグループ毎に違ったものを設定する。

第1回目の Virtual Class グループ内の自己紹介、議論するテーマに関する話し合いなど

↓
グループで SNS やメールを利用してディスカッション (1~3回)、スライドの作成

第2回目の Virtual Class スライドの発表

↓
グループで SNS やメールを利用してディスカッション (1~3回)、動画の作成

第3回目の Virtual Class 動画でのプレゼンテーション

↓
グループで SNS やメールを利用してディスカッション (1~3回)、ポスター原稿の準備

フランス研修 (グルノーブル) にて Face to Face で、議論の収束、ポスター作成・発表を行い、また、研修終了後得られた経験について、情報共有する。

～受講生の身につけた能力 (VC 終了後のレポートより抜粋) ～

- 日本特有の“もったいない”という言葉がフランスの高校生にも伝わっていて、日本のことを知りたいという気持ちが想像していたより大きかったので驚いた。私もフランスの高校生に負けずに、こちらからも向こうの文化を学んで共有していきたいと思った。
- フランスの生徒達の英語力に驚いた。英語力を向上させるとともに、日本で行われている研究について知っておく必要があると思った。また、自分の興味のある分野は負けないように知識をつけていきたいと思う。
- フランスの生徒達と前回より上手く話せた。この調子で上手にコミュ



コミュニケーションがしたい。準備したスライドを使って巧く交流できて良かった。

●相手の顔を見て話すのは緊張したが、話をしていくうちに、だんだん楽しくなってきた。とても良い経験になった。

●余裕を持って、ディスカッションに取り組むことが大切だと思った。

※全体として、コミュニケーションを取るための動機付け、英語学習意欲の向上、通常と異なる環境で活動するために必要な事前準備の再認識、環境保護への国外の積極的組みの体験などの成果が得られた。また、訪問先の担当教員から、フランスの高校生へも大きな刺激になっており双方に有意義なプログラムであったという評価を受けている。